

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会 全体協議会 議事概要

開催日時：令和7年10月2日(木) 15:00～16:15

場 所：長野県庁 講堂 及び オンライン会議

出席者：66機関／全76機関

(市町村34／全41、学1／全1、国県25／全27、オブザーバー6／全7)

【議事次第】

1. 開 会

2. 報告事項

(1) 信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況について【資料1】

(2) 流域治水の最近の話題【資料2】

3. 閉 会

■開会

千曲川河川事務所長：

- ・ 令和元年10月の東日本台風水害を踏まえ、現在進めている緊急治水対策プロジェクトの今後のロードマップの説明に加えて、現在進めている流域治水を深化・加速化する上で参考となる、国土交通本省が8月に公表した資料をピックアップして紹介させていただく。
- ・ 水害対策に加え、「水の恵み」や「水でつながる豊かな環境」といった普段の千曲川の魅力向上、各地域の発展にも取り組んでいきたい。

■報告事項(1) 信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗状況の進捗状況について

- ・ 質問、意見等なし。

■報告事項(2) 流域治水の最近の話題

- ・ 質問、意見等なし。

■全体を通しての意見

長野市長：

- ・ おかげさまで、被災した豊野地区の土地の価格も若干上がり、移住するような方も増え、本当にいい傾向が見えてきた。
- ・ 事業期間延伸については、被災した長野市としては素直に「はい、分かりました」と、

言えない状況である。一方で、国家的な大プロジェクトを進めていく上での難しさというものも、十分に理解をしている。長野市としても今後、塩崎遊水地の早期完成に向けて、協力させていただく。

- ・ また、私は千曲川・犀川の改修を促進する期成同盟会（千曲川改修期成同盟会）の会長を務めていることから、（事業の着実な実施及び早期完了に向け、）財務当局に対し財源の確保についても強く要請していく。

須坂市長：

- ・ ロードマップ延伸については、やむを得ないものだと思っている。
- ・ 好きな言葉で「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」という言葉がある。まさに、上流の方々は下流を思っていていただき、また下流は上流に対して感謝することが大事と思っている。

中野市長：

- ・ ロードマップ延伸ということで令和 13 年度ということになっているが、これもやむを得ない、仕方がないと思っている。
- ・ 中野市では、流域全体で治水安全度の向上を図ることを目的として、令和 5 年 3 月に「中野市総合浸水対策計画」を策定し、目標と期間を定め、推進している。年に一度「中野市総合浸水対策合同会議」を開催し、県及び各事業の関係部署と情報共有し、社会情勢の変化、技術の進捗、また進捗状況等の結果を踏まえ、重点目標など内容の見直しを適宜行っている。
- ・ 河川整備だけではなく、流域市町村、コミュニティ、事業者など、あらゆる関係機関が参画意識を共有し、具体的な目標達成を定め、計画的に取り組む必要がある。

飯山市長：

- ・ 飯山市は多くの水害を経験したことから、千曲川下流域や市内を流れる中小河川の下流域に住む皆様の増水に対する不安・負担を少しでも軽減されるように、市民や事業所などをお願いをして、大雨により川が増水しそうな時は、お風呂の水や洗濯水などを流さない取り組み、「バスダム宣言」を 2023 年から行っている。千曲川を増水を抑える量としては微々たるものかもしれないが、先ほど発言があった「下流は上流に感謝し、上流は下流を思う」、そういった上下流一体につながるもの、ソフト面の運動としても効果があるものと考えている。

千曲市長：

- ・ 埴生と平和橋と 2 箇所の遊水地の整備、河道掘削、雨宮地区と野高場地区の 2 箇所の堤防強化を進めていただいている。千曲市としても用地の取得や地元説明会など、千曲

川河川事務所と連携し協力する中で、これまでプロジェクトの各種事業を推進してきた。

- ・ 事業期間の延長については、地元の理解が得られるよう丁寧に説明を行っていく。プロジェクトの早期完了に向け、流域治水にも共に取り組み、市も千曲川沿川の市町村として協力していく。

北相木村長：

- ・ 令和元年台風第 19 号の時に流木が橋に引っかかり床上浸水となった。その時、流木が原因で二度とそういうことが起こらないよう、すぐにその橋を取り壊して撤去した。それ以降 6 年間災害が出るような降雨はないが、逆に河川の中に木が育っている。台風 19 号の時と同じ状況になった時は、下流部に被害が及ぶと思っている。県と協議させていただきたい。

松川村長：

- ・ 国交省の大町ダムに加え、今回は、それぞれ民間の 2 つのダム、3 つのダムで洪水調節をしていただいているおかげで、下流域に住んでいる我々住民の生命財産を預かる首長としては安心して今、暮らしているところである。
- ・ 大町ダム、またその上流ダムにも今堆積している土砂があり、これを下流域の低水護岸への覆土や、堤防の強化等に有効活用していただくと、下流域の住民が安心して暮らせるのではないかな。

小布施町長：

- ・ 工期が延びることについては、仕方ないと思っている。町民への説明周知等に一緒に取り組んでいきたいと考えている。とはいえ、上今井地区含め下流部の工事進捗というものが、私の町にとっては次の工事の進捗に非常に直結しているため、このスケジュールどおりにしっかりと推進していただきたい。
- ・ 堤防強化等に際して、逆の影響というものが出てきていると思っている。道路高が 90cm 上がったことによって小布施橋に流木などが引っかかり、大きな影響を受けるのではと思っている。

小川村長：

- ・ 小川村は上流ということもあり、川幅も大変狭い状況で、少しまとまった雨が降ればすぐ、みるみるうちに水位が上がってくる。2 年ほど前も、床上・床下浸水というような状況も発生した。そうした中、浚渫工事、護岸を含めた工事も何箇所か実施している。関係機関、関係者の皆様方に感謝と御礼を申し上げる。

栄村長：

- ・ 堤防が整備されていくと、地域の皆さんも進み具合を見て安心感が高まっている。
- ・ 流域一体という観点から、上流や新潟県の水害、そういった歴史をもっともっと一生懸命学ぶことによって、この流域が一体でこの水の流れをしっかりと見つめていくということを、これから村を挙げて真剣に考えていく。

南相木村長：

- ・ 古来、祭事というのは、治水が第一歩だという風に理解をしているところ。
- ・ お風呂の水を流すのをやめる、時間差をする、そういう小さいことの積み重ねというのは大事なことだと思っている。その中で、村では雨水貯留槽の設置補助を進めているが、高価でありなかなか取組が進んでいない状況。農業用タンクをうまく活用して貯留槽にできないか。
- ・ 令和元年の台風災害では長野市にある新幹線の車両基地が浸水したことについて非常にショックを受けた。村民の皆様も村に降ったものを、いかに少ない量にして被害を防ぐかというのが共通の認識。下流の皆様と共に、手と手を取り伝えて、流域治水を頑張っていきたい。

立科町長：

- ・ 流域治水の取り組みとして、水害が多発している流域の治水安全度の向上及び浸水被害軽減のための取り組み等の検討を進めている。また、水害時の状況と原因を把握し、計画的に被害の軽減を図るために、各市町村が国、県と連携し対策を推進することが、災害に強い安全安心なまちづくり並びに地域づくりに資するものと考えている。

麻績村長：

- ・ 40 近いため池が多く点在しているところであり、ため池を活用しながら、水害の軽減に努めている。ため池の水位をあらかじめ下げることで大雨時に受け入れられる容量の確保を図っている。
- ・ 水田を活用して雨水を一時的に貯留することで、流出時間を遅らせるよう、農家の皆様方と今研究を進めてるところ。
- ・ 村内のダムについても管理者と協定が行われており、事前放流により、洪水の流出時間を遅らせ、下流への影響の削減に繋げている。小さな取り組みかもしれないが、上流部は上流部として、下流に流さないように、時間を遅らせて流そうと取り組んでいる。
- ・ 大雨の際には極力下流への流出を少なくするように努め、災害の未然防止に少しでも

繋がっていけばと取り組みを行っている。今後についても、それぞれの地域の取り組み等を参考にさせていただく中で、災害の未然防止に向け少しでも時間を使って流れるよういけばと思っている。

■閉会

長野県河川課長：

- ・ 「流域治水の今後の進め方」について説明させていただいた。
- ・ 治水に加え、利水・環境も流域全体であらゆる関係者が協働して取り組む「流域総合水管理」という新しい施策もスタートしている。
- ・ 今後、本協議会の枠組みを活用して、「流域治水」「水利用」「流域環境」の一体的な取り組みをあらゆる関係者が協働して推進していきたい。

以上